

センター統合について



力強く見識の高いプロに

(社)日本技術士会北海道支部
技術士（建設部門）

伊 藤 昌 勝

今年も試験合格お祝いの会があります。例年、支部長とセンター会長が挨拶します。新人に二つの組織の違いを話すのは、それなりに難しいものです。細かなことですが、今回の組織統合でその辺もスッキリします。

勇者を知る

或る新聞で、未来学者アルビン・トフラーの一文を読みました。トフラーは、世界中で反プロ主義、つまりプロを信頼しない傾向が高まっていると言います。この傾向は、技術分野ばかりでなく、法律、教育など広い分野で例外なく見られるそうです。確かに、血液検査の数値だけで病状を判断する医師もいないわけではありません。それなら「ウチのカアさんでもできる」と言うような事なのでしょう。

理由は、情報化でオタクでなくとも玄人裸足の知識を身に付けられること。或いは、プロがビシッとプロらしく振舞わないこと、などにあるようです。技術士はプロ。「勇者は勇者を知る」で、プロ同士は正しく実力を認め合っております。素人は恐ろしい、とばかりは言っていないような気がします。

成果主義

相当以前から、何となくソニーやホンダに興味をそそられて来ました。町工場が世界企業になったサクセスストーリーではなく、創業者が仕事の合間に漏らしていた語録に惹かれたように思います。そのソニーが大変な状態にあるようです。株価もそれを物語っております。

経営陣を退いた一人は、その理由を成果主義にあると述懐しております。富士通にもそんな話があっ

たように思います。成果主義は、社員を公明に評価し分かり易い形で処遇する考え方です。導入の結果、設定枠の中での成績に拘る風潮^{こだわ}が蔓延したと言う分析です。ソニー神話の素は、課題に向かって猪突猛進し処遇は後から付いて来ると言う心意気と、例え失敗に終わってもそれを暖かく見守る社風にあった。人の評価は客観数値よりも、ベテランの直感の方が優れているとも述べております。

技術士諸氏は如何でしょうか。多くは、猪突猛進タイプだと思います。技術は、無から有を創ること。ハードルが高いほどその達成感には堪らないものがあります。とは言え、成果主義が持つ合理的に処理する側面もそれなりに意味があります。むしろ、若い技術者には歓迎されるのかもしれませんが。落着き先は、根性・誇り・信念を生かす合理主義と言うところでしょうか。プロの塊ソニーは、きっと課題を克服することでしょう。

資格者らしい活動

今回の組織統合は、些^{いさ}か連携の弱い全国の技術士を糾合すると言う一面もあります。技術士が最高の国家資格に自己満足しているだけでは、科学技術立国への寄与も程が知れます。全国6万人の技術士には、プロとして積極的に発言して行く責務があります。技術士の親戚筋にあたる一級建築士は32万人。耐震偽装問題にめげず、更なる国民への浸透に努めております。資格の有る者は、それにふさわしい活動をしてこそ国民に貢献できるものだと確信します。統合は、センターの脱皮です。更に力強く見識の高いプロになりましょう。